

# 中期目標の達成状況に関する評価結果

浜松医科大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

# 目 次

法人の特徴	.....	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	.....	5
《本文》	.....	9
《判定結果一覧表》	.....	17

## 法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

建学の理念「第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中心的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。」を踏まえ、特に以下の事項について重点的に取り組む。

1. 医学および看護学の進歩に対応する能動的学習能力、問題探求・問題解決能力、そして、幅広い教養に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、国際性を育み、地域社会に貢献できる医師・看護専門職を養成すると共に世界に発信できる研究者の育成を目指す。
2. 光医学を中心とした独創的研究と新しい医療技術の開発推進に取り組む。特に、光技術の医学応用（メディカルフォトンクス）と生体内分子の詳細な画像化（分子イメージング）に関する研究を推進し、医学に関する総合的なイメージング研究の世界拠点となることを目指す。
3. 地域医療の中核病院として高度な医療を提供すると共に、病病・病診連携を促進し、地域社会のニーズと個々の病院機能に応じた医療ネットワークの構築を目指す。また、先駆的な医療を世界に発信するために、臨床教育の充実を図り、研究マインドを有する専門医の育成を推進する。
4. 先端的・学際的領域の基礎研究・臨床研究において、本学の特色を活かした産学官連携を推進し、研究成果の社会還元を目指す。

- 1 本学は、昭和49年、静岡県唯一の国立医科単科大学として設置された。現在、医学部には、医師養成課程を持つ医学部医学科、保健師・看護師養成課程を持つ医学部看護学科が置かれている。大学院医学系研究科には、博士課程医学専攻及び修士課程看護学専攻が置かれており、平成27年度から修士課程看護学専攻には、助産学専攻科の廃止に伴い、助産師養成課程が新たに置かれている。
- 2 能動的学習能力、問題探求・問題解決能力を育むため、PBL ビジュアルコミュニケーションシステムの導入や、図書館にラーニング・コモンズを設置するなど教育の改善に力を入れており、近年の各種国家試験は、良好な成績を収めている。また、地方公共団体等との密接な連携の下、地域周産期医療学講座（平成23年度）、産婦人科家庭医療学講座（平成24年度）及び地域家庭医療学講座（平成25年度）の設置や、近隣自治体での臨床実習を行うなど、静岡県内の地域医療の中核を担う医師の養成・確保や地域のニーズの高い専門医の養成等を積極的に推進している。
- 3 本学は、浜松が擁する世界的な企業との30年に及ぶ交流を通じて、最先端の光技術を用いた光医学の基礎的・臨床的研究に注力してきており、「光技術の医学応用（メディカ

ルフォトンクス)」と「生体内分子の詳細な画像化（分子イメージング）」が大きな特徴の一つとなっている。近年も、研究スペースの集約化と拡張や最先端の研究機器の戦略的な導入など、研究環境を整備し、先進的で特色ある研究を推進している。

- 4 浜松には、「ものづくり」企業が多数集積し、本学との共同研究が活発に行われており、実用化にも繋がっている。また、地域企業との産学連携や医工連携の窓口とするためのコーディネータを常駐させ、シーズ／ニーズ発掘から実用化までの体制を整備している。

#### [個性の伸長に向けた取組]

教育について、医学科では、第1期中期目標期間中に導入したPBLチュートリアル教育を更に発展させ、PBLビジュアルコミュニケーションシステムを整備し、上級の学生チューターが下級生を指導する屋根瓦方式を取り入れた。また、看護学科では、ポートフォリオ形式を採用して看護技術の習熟度をチェックさせることで看護技術を的確に修得させている。これらにより、本学が目標とする学生の能動的学習能力、問題探求・問題解決能力を育んでいる。

研究については、光技術等を用いた先進的医学研究をさらに進め、産学連携・実用化も進めていくために、既存の施設を改組し、光先端医学教育研究センターを設置するとともに、光医学分野の研究機能を強化するため、拡散光トモグラフィーの第一人者を招へいし、新研究室を設置した。また、同センターに産学官共同研究の窓口となる部署も設け、准教授としてコーディネータを配置し、地域産業との連携推進の充実を図った。

(関連する中期計画) 計画1-1-1-1、計画1-1-1-2、計画2-1-1-3及び計画3-1-1-4

#### [東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

1. 平成23年10月に、学生らが震災の教訓を基に①災害時救護活動の訓練、②被災地支援ボランティア活動を目的としたサークルを自ら立ち上げた。設立以来、毎年7月には釜石市保育園のイベントの支援、また3月と8月は南相馬市、南三陸町の復興支援ボランティアに各3～10人が参加している。

また、医師不足となつたいわき市の病院からの支援要請に対し、医師である大学院学生3名を5日間ずつ派遣し、診療業務を支援した。

2. 子どものこころの発達研究センターにおいて、震災被害、放射線問題等、多大なストレスに晒されている福島の子どもたちに対する以下のメンタルヘルスへの支援を実施した。

- (1)心の教育プログラム（ストレスマネジメント方法やネガティブ感情の切り替え方法の習得など）  
(2)児童生徒、保護者への個人面談教員へのコンサルテーションなどの巡回相談

3. 福島県教育委員会の委託を受け、「緊急時スクールカウンセラー派遣事業（災害分）」を現在も継続的に実施している。

事業は、福島県内の小・中・高等学校を巡回し、気になる児童生徒のアセスメント及び面談や教員への教育相談、児童生徒への精神健康調査等を行っている。



## 評価結果

### 《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、浜松医科大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

### ＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
<b>(Ⅰ) 教育に関する目標</b>	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果に関する目標	おおむね良好			3	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好			3	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			1	
<b>(Ⅱ) 研究に関する目標</b>	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果に関する目標	おおむね良好		1	2	
② 研究実施体制の整備に関する目標	おおむね良好			1	
<b>(Ⅲ) その他の目標</b>	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			1	

### ＜主な特記すべき点＞

#### 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）において、講義及び実習を行うメディカルフォトンコースや分子イメージング技術講習会等を、研究者を対象に実施している。特にメディカルフォトンコースでは、平成26年度から平成27年度にかけて、新規イメージング技術の紹介、意見交換を行うため、企業3社とハンズオンセミナーを開催し、平成27年度に参画企業の新人教育の場として同コースを活用するなど、産学連携強化にも寄与している。技術講習会等の参加者数は、第2期中期目標期間における年平均で約100名、最大で125名となっている。また、平成25年度に、文部科学省の研究開発施設共用等促進費補助金（先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業）を獲得し、平成25年度から平成27年度にかけて、88件の企業の利用を含む合計195件の課題を実施し、400万円以上の利用料収入をあげている。（中期計画2-1-1-2）
- 遺伝子・プロテオーム解析に基づく疾患の解明研究を推進するため、基礎臨床研究棟にデータ解析室を新設し、既存施設の設備の再配置等を行っている。平成24年度から平成25年度にかけて研究機器を追加整備するなど、平成26年度までにオミックス解析環境の集約化を行っている。また、平成27年度に機能強化のため、基礎臨床研究棟に研究機器を追加整備している。これらにより、講座の枠を超えた研究を推進し、原因遺伝子不明疾患の遺伝子変異の特定、新生児の呼吸障害や発達遅延を起こす先天性の稀少疾患の国際的な診断基準を作成するなどの研究成果をあげている。（中期計画2-1-1-4）
- 産学官共同研究センターに、地元企業との産学連携や医工連携の窓口とするためコーディネータを常駐させるなど、シーズ・ニーズの発掘から実用化までの体制を整備している。厚生労働省の国産医療機器創出促進基盤整備等事業の拠点として採択され、同センターが中心となり、医療現場のニーズを踏まえた企業等との医工連携の取組を推進している。また、経済産業省の平成26年度産学連携評価モデル拠点モデル実証事業の採択により、産学連携研究活動の評価指標を策定するなどの機能強化を図っている。なお、これらの取組は、複数のマスメディアに取り上げられ、各省庁等の訪問・見学を受けている。（中期計画2-1-2-1）
- 平成27年度にメディカルフォトン研究センター、動物実験施設、実験実習機器センター及び産学官共同研究センターを統合し、光先端医学教育研究センターを設置している。また、同センターに、産学官共同研究の窓口となる産学官連携推進部を設け、コーディネータを配置するなど、地域産業の発展に寄与するための取組を推進している。（中期計画3-1-1-4）



**<復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組>**

- 平成 23 年 10 月に、学生らが震災の教訓を基に①災害時救護活動の訓練、②被災地支援ボランティア活動を目的としたサークルを自ら立ち上げた。設立以来、毎年 7 月には釜石市保育園のイベントの支援、また 3 月と 8 月は南相馬市、南三陸町の復興支援ボランティアに各 3～10 人が参加している。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。



## 《本文》

### (I) 教育に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

##### (1) 教育内容及び教育の成果に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (特色ある点)

##### ○学生自身による客観的な到達度評価の実施

中期目標（小項目）「【学士課程】 豊かな教養と倫理観に基づく人間性を養い、全人医療を実践できる医療人を養成する。」について、看護学科では、学生に専門的な知識、技術を修得させるため、ポートフォリオ形式の看護技術チェック表の自己評価を、厚生労働省が提示した看護師教育の技術項目と卒業時の到達度リストと照らし合わせることにより、学生自らが、客観的に看護技術の到達度の評価を行うことを可能にしている。（中期計画 1-1-1-1）

##### ○県内医療機関への就職者の増加に向けた地域一体による取組の推進

中期目標（小項目）「【学士課程】 豊かな教養と倫理観に基づく人間性を養い、全人医療を実践できる医療人を養成する。」について、新卒者の県内医療機関への就職率を平成 27 年度までに 60%以上にするという高い目標を掲げ、県内高等学校への訪問等の広報活動や、授業科目「医学概論」における地域医療の講義・実習、県の医療過疎地域の医療施設での地域医療実習を実施している。平成 25 年度に、県内の医療機関等との連携の下、寄附講座として地域家庭医療学講座を開設し、近隣自治体での臨床実習を行っている。これらの取組の結果、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）における新卒者の県内医療機関への

就職率は、年度により中期計画に掲げた 60%に達していないものの、平均で約 56%、県内出身者の県内就職率は平均で 80.5%となっており、医療過疎を解消するために、地域と一体となった取組を先導的に推進している。（中期計画 1-1-1-6）

○臨床研究者コースの設置

中期目標（小項目）「【大学院課程】 高度の専門的な知識及び技術を身につけた臨床医及び医学研究者又は看護専門職及び看護学研究者を養成する。」について、平成 24 年度に博士課程を 4 専攻から医学専攻の 1 専攻に改組している。専攻を構成するコースとして、基礎医学研究者を養成する研究者コース、臨床研究医を養成する臨床研究者コースを設けている。（中期計画 1-1-2-2）

(2) 教育の実施体制等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した 3 項目のうち 1 項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された 1 計画を含む。

<特記すべき点>

（優れた点）

○図書館の資料の電子化・情報化の推進

中期目標（小項目）「教育に必要な施設、設備などの教育環境を充実させる。」について、学生の学習用電子書籍の追加導入や、電子ジャーナルのバックファイルの購入等により、図書館の資料の電子化・情報化を推進している。また、平成 24 年度から、図書館内の設備の配置換え等により確保できたスペースを利用し、ラーニング・コモンズを設置し、平成 25 年度以降も拡充を図るなど、図書館の機能を強化している。図書館の資料の電子化・情報化の推進により、電子ジャーナルダウンロード数は、平成 22 年度の 8 万 1,304 回から平成 27 年度の 13 万 414 回へ増加している。また、ラーニング・コモンズの設置により、図書館の入館者数は、平成 25 年度の 11 万 8,859 名から平成 27 年度の 12 万 1,748 名へ増加している。（中期計画 1-2-2-2）

(特色ある点)

○新たな教育方法、指導方法の構築

中期目標（小項目）「教育目標を実現するため、教育実施体制の充実を図る。」について、光医学の素養を持った医師、光医学研究のリーダーの養成に向けて、平成 28 年度入学者から適用を受ける授業科目として、医学科では「光医学の基礎と臨床応用」、大学院博士課程では「質量分析学・顕微鏡学」を新設するなど、新たな教育方法、指導方法の構築に向けて取り組んでいる。

(中期計画 1-2-1-2)

(3) 学生への支援に関する目標

**【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された3計画を含み、「おおむね良好」と判定した2項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 技術講習会等の開催及び先端研究施設・設備の活用等による産学連携活動の強化  
中期目標(小項目)「先端的・学際的領域の基礎研究・臨床研究を推進し、世界の水準に並ぶ研究領域を確立する。」について、第2期中期目標期間において、講義及び実習を行うメディカルフォトニクスコースや分子イメージング技術講習会等を、研究者を対象に実施している。特にメディカルフォトニクスコースでは、平成26年度から平成27年度にかけて、新規イメージング技術の紹介、意見交換を行うため、企業3社とハンズオンセミナーを開催し、平成27年度に参画企業の新人教育の場として同コースを活用するなど、産学連携強化にも寄与している。技術講習会等の参加者数は、第2期中期目標期間における年平均で約100名、最大で125名となっている。また、平成25年度に、文部科学省の研究開発施設共用等促進費補助金(先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業)を獲得し、平成25年度から平成27年度にかけて、88件の企業の利用を含む合計195件の課題を実施し、400万円以上の利用料収入をあげている。(中期計画2-1-1-2)

○講座の枠を超えた研究の推進

中期目標（小項目）「先端的・学際的領域の基礎研究・臨床研究を推進し、世界の水準に並ぶ研究領域を確立する。」について、遺伝子・プロテオーム解析に基づく疾患の解明研究を推進するため、基礎臨床研究棟にデータ解析室を新設し、既存施設の設備の再配置等を行っている。平成 24 年度から平成 25 年度にかけて研究機器を追加整備するなど、平成 26 年度までにオミックス解析環境の集約化を行っている。また、平成 27 年度に機能強化のため、基礎臨床研究棟に研究機器を追加整備している。これらにより、講座の枠を超えた研究を推進し、原因遺伝子不明疾患の遺伝子変異の特定、新生児の呼吸障害や発達遅延を起こす先天性の稀少疾患の国際的な診断基準を作成するなどの研究成果をあげている。

（中期計画 2-1-1-4）

○地元企業との産学連携や医工連携の推進

中期目標（小項目）「研究成果の社会還元のために、地域組織と共同で、産学連携に資する活動を推進する。」について、産学官共同研究センターに、地元企業との産学連携や医工連携の窓口とするためコーディネータを常駐させるなど、シーズ・ニーズの発掘から実用化までの体制を整備している。厚生労働省の国産医療機器創出促進基盤整備等事業の拠点として採択され、同センターが中心となり、医療現場のニーズを踏まえた企業等との医工連携の取組を推進している。また、経済産業省の平成 26 年度産学連携評価モデル拠点モデル実証事業の採択により、産学連携研究活動の評価指標を策定するなどの機能強化を図っている。なお、これらの取組は、複数のマスメディアに取り上げられ、各省庁等の訪問・見学を受けている。（中期計画 2-1-2-1）

（特色ある点）

○光工学を基盤とした医学への応用研究の環境整備

中期目標（小項目）「先端的・学際的領域の基礎研究・臨床研究を推進し、世界の水準に並ぶ研究領域を確立する。」について、光工学を基盤とした医学への応用研究では、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発事業の採択により、地元企業と連携し、非拘束型頭部専用 Positron Emission Tomography（PET）装置の開発を行うことで、認知症患者や自閉症等の精神神経疾患を対象とする先進的臨床 PET 研究を遂行する環境を整備している。（中期計画 2-1-1-3）

(2) 研究実施体制の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。



(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○地域産業の発展に寄与する取組の推進

中期目標（小項目）「地域の医療機関や民間企業等との連携・交流を積極的に推進するとともに、教育研究の成果を活かし、地域医療の向上や地域社会の教育に貢献をする。」について、平成 27 年度にメディカルフォトニクス研究センター、動物実験施設、実験実習機器センター及び産学官共同研究センターを統合し、光先端医学教育研究センターを設置している。また、同センターに、産学官共同研究の窓口となる産学官連携推進部を設け、コーディネータを配置するなど、地域産業の発展に寄与するための取組を推進している。（中期計画 3-1-1-4）

(特色ある点)

○中学生及び高校生を対象とした職場体験の実施

中期目標（小項目）「地域の医療機関や民間企業等との連携・交流を積極的に推進するとともに、教育研究の成果を活かし、地域医療の向上や地域社会の教育に貢献をする。」について、平成 25 年度から中学生及び高校生を対象に、職場体験として救急医療や1日ナース体験等を実施しており、医師や看護師を志すための契機となっている。（中期計画 3-1-1-3）



《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果に関する目標		おおむね良好	
【学士課程】 豊かな教養と倫理観に基づく人間性を養い、全人医療を実践できる医療人を養成する。		おおむね良好	
1-1-1-1	【学士課程】 カリキュラム、シラバス等を定期的に検証・改善し、専門的な知識及び技術を身につけた医師又は看護専門職を養成する。	おおむね良好	特色ある点
1-1-1-2	基礎配属、PBLチュートリアル教育等を検証・改善し、課題探求能力、問題解決能力を育成し、研究心に富み、主体的かつ意欲的に学習する医療従事者を育成する。	おおむね良好	
1-1-1-3	医学科の臨床実習、看護学科の臨床実習の充実を図り、実践的な能力に優れた医療従事者を育成する。	おおむね良好	
1-1-1-4	公正で厳格な成績評価を行い、卒業時に備えるべき能力を社会に対して保証する。	おおむね良好	
1-1-1-5	講義、ゼミナール等を実施することにより、医療従事者としての使命感、責任感及び倫理観を育成する。	良好	
1-1-1-6	地域医療を担う医師を育成し、新卒者の県内医療機関への就職率を平成27年度までに60%以上にする。	良好	特色ある点
1-1-1-7	海外との交流を推進するとともに幅広い外国語学習の機会を提供する。	おおむね良好	
【大学院課程】 高度の専門的な知識及び技術を身につけた臨床医及び医学研究者又は看護専門職及び看護学研究者を養成する。		おおむね良好	
1-1-2-1	【大学院課程】 海外学術交流協定校との交流や国際学会等での研究発表を推進し、国際的に活躍できる広い視野、豊かな知性、教養を持ち、世界をリードできる研究者を養成する。	おおむね良好	
1-1-2-2	各研究コースの内容を充実させて優れた研究テーマについて経済的支援を行い、研究者を養成するとともに研究マインドを身につけた臨床医及び看護専門職を養成する。	おおむね良好	特色ある点
1-1-2-3	教育研究を活性化するため、外部の教員や外国人研究者等に広く門戸を開き、開かれた教育研究環境を構築し、特色ある教育研究を推進する。	おおむね良好	
【学士課程・大学院課程】 世界的に評価される高度な医療並びに独創的、先進的研究成果の達成を目指す優秀な人材を確保する。		おおむね良好	
1-1-3-1	【学士課程・大学院課程】 入学者選抜方法の工夫・改善を図り、優秀な人材を確保する。	おおむね良好	

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
教育目標を実現するため、教育実施体制の充実を図る。		おおむね良好	
○	1-2-1-1 教育を実施する組織の現状、そして教育者に求められる知識・技術を再点検し、教育実践力のある優れた教育実施体制の構築を図る。	おおむね良好	
	1-2-1-2 光医学の素養を持った医師及び光医学研究のリーダーの養成を実現するため、新たな教育方法、指導方法を構築する。	おおむね良好	特色ある点
教育に必要な施設、設備などの教育環境を充実させる。		おおむね良好	
	1-2-2-1 学生との意見交換会を定期的に行い、その意見を踏まえ、予算の範囲内で学生が学習する教育環境の充実を図る。	おおむね良好	
	1-2-2-2 図書・雑誌・電子ジャーナル等の充実や施設・設備の整備・更新を進め、図書館機能の強化を図る。	良好	優れた点
教員の教育の質の向上を図る。		おおむね良好	
	1-2-3-1 授業評価を実質的な改善に結びつけること及び積極的なFD活動を展開することにより、学生の授業に対する要望を把握し、教育効果を上げるため、教員の教育力を高めるための体制を構築する。	おおむね良好	
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
学生への修学等支援及び健康管理の充実を図る。		おおむね良好	
	1-3-1-1 修学支援、生活支援、就職支援及び学生相談等を検証、改善し、一層充実した学生支援を行う。	おおむね良好	
	1-3-1-2 健康診断、抗体価検査、予防接種等の実施及び健康相談等のデータを一元的に管理する。	おおむね良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果に関する目標		おおむね良好	
先端的・学際的領域の基礎研究・臨床研究を推進し、世界の水準に並ぶ研究領域を確立する。		良好	
○	2-1-1-1 光技術の医学応用を目指すメディカルフォトンクスと生体内分子の詳細な画像化を目指す分子イメージング研究を推進する。	良好	
	2-1-1-2 メディカルフォトンクスと分子イメージング研究に係わる研究者を対象とした技術講習会（講義及び実習）を開催し、年間40人以上の専門研究者を養成する。さらに、産学連携を強化するため、企業人にも対象を広げる。	良好	優れた点
	2-1-1-3 メディカルフォトンクスと分子イメージングの研究組織と環境を整備するため、平成27年度に「光先端医学教育研究センター」を設置するとともに、光医学分野の研究機能を強化するため、拡散光トモグラフィー分野の第一人者を招へいする。	良好	特色ある点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
○	2-1-1-4	遺伝子とプロテオーム解析に基づく疾患の解明研究を推進するとともに、先端的な研究を高効率で進めるため、関連する研究スペースの集約化を図り、最先端の研究機器を追加整備する。	良好	優れた点
研究成果の社会還元のために、地域組織と共同で、産学連携に資する活動を推進する。			おおむね良好	
○	2-1-2-1	シーズ発掘・育成機能と知財管理・活用の機能を強化する。さらに、平成27年度より、医療知識を持った工学者等を配置し、産学連携研究開発部門の機能を強化する。	良好	優れた点
	2-1-2-2	学外の機関との連携や交流を積極的にマネジメントするシステムを構築する。	おおむね良好	
国際的連携による特色ある研究を推進し、その成果を海外に発信する。			おおむね良好	
	2-1-3-1	海外との共同研究を推進する。	おおむね良好	
	2-1-3-2	海外研究機関との連絡調整を行うコーディネーターを5人以上委嘱し人的交流、情報交換を積極的に推進する。	おおむね良好	
② 研究実施体制の整備に関する目標			おおむね良好	
研究の支援体制を高度化する。			おおむね良好	
	2-2-1-1	若手研究者等の支援体制を整備する。	おおむね良好	
	2-2-1-2	研究を促進するための新しい支援制度を検討し、それを運用する。	おおむね良好	
	2-2-1-3	研究を支援する職員の体制を改善する。	おおむね良好	
(Ⅲ) その他の目標			おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標			おおむね良好	
地域の医療機関や民間企業等との連携・交流を積極的に推進するとともに、教育研究の成果を活かし、地域医療の向上や地域社会の教育に貢献をする。			おおむね良好	
	3-1-1-1	地域における医療支援のネットワーク活動を推進する。	おおむね良好	
	3-1-1-2	地域の医学・医療知識のレベルアップを図り、健康増進施策に貢献する。	おおむね良好	
	3-1-1-3	地域の中等教育組織と連携して、中学生、高校生のための科学教育の支援を推進する。	おおむね良好	特色ある点
○	3-1-1-4	平成27年度に設置する「光先端医学教育研究センター」における研究開発や企業連携に関する調整機能の強化等の取組を通じ、光医学研究の推進や光技術をリードする研究者・医療人の育成を行うことにより、地域産業の発展に寄与する。	良好	優れた点



## 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	<p>第2期中期目標期間において、光先端医学教育研究センターの設置と光医学で一線級の研究者の招へいにより研究機能を強化し、光産業でイノベーション創出をけん引する地元企業等と連携した共同研究等により医療機器開発・実用化を推進するとともに、光医学の素養を持った高度専門人材の輩出と地域産業の発展に寄与することを目指した計画を進めている。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発事業の採択により、地元企業と連携し、非拘束型頭部専用Positron Emission Tomography（PET）装置の開発を行うことで、認知症患者や自閉症等の精神神経疾患を対象とする先進的臨床PET研究を遂行する環境を整備している。平成27年度に光先端医学教育研究センターを設置し、産学官共同研究の窓口となる産学官連携推進部を設け、コーディネータを配置するなど、地域産業の発展に寄与するための取組を推進している。また、講義及び実習を行うメディカルフォトンコースや分子イメージング技術講習会等を、研究者を対象に実施している。特にメディカルフォトンコースでは、平成26年度から平成27年度にかけて、新規イメージング技術の紹介、意見交換を行うため、企業3社とハンズオンセミナーを開催し、平成27年度に参画企業の新人教育の場として同コースを活用するなど、産学連携強化にも寄与している。技術講習会等の参加者数は、第2期中期目標期間における年平均で約100名、最大で125名となっている。</p>
-----	--